



研修・イベントレポート

平成17年度中国実習——日本では得がたい貴重な体験

鍼灸学科教員 房前素徳



昨年度に続き今年度も、鍼灸学科アドバンスコース2年生の27名と引率教員など4名の計31名は、11月24日より12月5日の12日間の日程で中国研修を行いました。研修先は天津中医学院及び天津中医学院第一附属病院です。

昨年の広州がベストシーズンであったのに対して、今年の広州・天津はマイナス10℃以下になる可能性があると脅かされ、防寒について学生に徹底指導した上での訪中でした。実際には予想に反して12日間の大半が暖かく、帰国直前の初雪で数名が体調を崩したものの、無事帰国することができました。

さて、実習の内容は午前中3時間の病院実習に午後3時間の講義という構成でした。病院実習は鍼灸外来・入院病棟・心身科を見学しました。天津中医学院第一附属病院は鍼灸外来が29室あり、1日平均5500人の患者さんが来院し、入院施設のベッド数は1300床以上、中国でも屈指の患者数で、中国政府からの助成金が最も多いとのことでした。実際にその施設や診療状況等を目の当たりにし、学生たちは鍼灸に対する興味をより深めたようでした。講義では「醒腦開竅法」「手技科学」「壺亀八法」や人体を3次元で捉えること、皮膚や脂肪組織の重要性、及び中国と日本のご遺体に対する考え方など、日本では得がたい知識を教えてくださいました。また人体解剖を学生自らの手で行い、貴重な体験が得られた有意義な実習でした。

アメリカ研修を終えて

柔道整復学科 アドバンスコース2年生 杉本祐介

平成17年6月12日から6月24日まで、私たち柔道整復学科アドバンスコース2年生はアメリカ研修に行ってきました。

場所はオレゴン州アシュランド市にある南オレゴン大学です。この大学は豊かな自然に囲まれ、美しい景観を持つ街の中にあり、恵まれた環境のもとで個々の能力を伸ばすために学び、クラブ活動に取り組んでいるといった、研修には最適な場所でした。

今回の研修目的は「アメリカにおけるスポーツ医学やその周辺事項について学び、アメリカの国家資格であるアスレティックトレーナーの活動を通じて、日本における柔道整復師のあり方やスポーツとの係わり方を考え、今後の医療活動に役立てる事」です。講義や実習、見学など充実したスケジュールのもと、日本と違った環境の中で異文化に親しみながらの研修となりました。



アメフトの合宿現場でトレーナーの仕事を見学

私たちを指導して下さったのはアスレティックトレーナーのマイク先生で臨床経験を交えながら、とても熱心に教えて下さり、私たちも真剣に取り組みました。実際にスポーツ外傷を処置する機会もあり、見学させていただくことでより分かりやすくなり、勉強になりました。

朝は教室でスポーツ外傷について講義を受け、午後からはスポーツ現場で行う検査・テーピング方法などの実習と様々な施設の見学でした。アメリカンフットボールの合宿現場へはトレーナーに同行してその仕事ぶりを見学し、PT(理学療法)クリニックではアメリカの医療現場を身近に感じ、また消防署や演劇鑑賞とアメリカの文化に触れることもできました。

大学の敷地は驚くほど広く、グラウンドや体育館などが開放されており、プールではマイク先生にダイビング教室を開いていただきスポーツを身近に感じる事ができました。

自由時間を使い、研修でお世話になった日本人留学生とソフトボールの試合をしたときは、留学生の熱烈的な歓迎ぶりに驚きましたが、何よりグラウンドの向こうに広がる景色に興奮したのを覚えています。

休日にはナショナルパークの「クレーターレイク」を訪れました。この日は真夏にもかかわらず、現地の人たちも驚くほどの大雪で、うわさに聞いていた湖はもう見る事ができないと思っていましたが、突然、天気が回復



夏でも雪! (ナショナルパーク・クレーターレイク)

して目の前に見たこともない絶景が現れました。カメラやビデオに写り込めない光の射す銀世界の湖は感動的で忘れられないものとなりました。ジェットボートでの気持ちのいい風と、美しい自然の中を走りぬける爽快感、水しぶきを浴びる高速ターンの興奮は忘れられません。自然の中の食事もいい思い出です。現地の人たちとコミュニケーションをとり、夜には先生たちとゲームをしたり、熱く語っていただいたりと楽しく過ごすことができました。こうした休日を過ごせたことで良い息抜きができ、またアメリカらしさを体感することができたと思います。

最後に、アメリカでお世話になった方々への感謝の意味を込めて、私たちはサンクスパーティーを開催しました。相撲を披露し、大量の焼肉と焼きそばを用意しバーベキューを楽しみました。マイク先生はその場で修了証を一人ひとりに手渡し、強く握手をしてくれました。力強いマイク先生の手は研修をやり遂げたという達成感と感動を与えてくれました。最後に皆で歌を唄い、マイク先生を胴上げし、アメリカ研修が終了しました。

今回、団体生活を通してクラスの結束力は上がり、先生方とも学校以外で貴重な交流時間を持つことができました。そして、日本と違う目線で様々なものを見ることができ、新たな価値観を持って医療とスポーツがどのように関係しているかを考えることができました。柔道整復師としてスポーツに対し広い視野を持って取り組むことを今後の医療活動や自身自身の成長のために役立てていきたいと思っています。

マイク先生、南オレゴン大学の方々、お世話いただいた留学生の方々、今回の研修を企画してくださった先生方に感謝します。また、この素晴らしい研修が後輩へいつまでも続くことを願っています。